第１Ａ分科会　研究課題「教育課程に関する課題」
研究主題「児童生徒の学びや育ちを支える社会に開かれた教育課程の実現
～学校運営協議会の活性化と学校評価の工夫・改善～」

都城支会　都城市立姫城中学校　坂元亮一
都城市立中郷中学校　安藤聖二

１　主題設定の理由

都城市では、全ての小・中学校において「学校運営協議会」が設置されている。各学校では、地域の力を借りながら、教育環境の整備や教育支援活動など、様々な形で教育活動の充実が図られているが、それは、各学校がこれまで積み上げてきた地域連携の取組の上に立つものであり、その有り様は学校によって様々である。

姫城・中郷地区においても、６つの小・中学校が、それぞれのスタイルやビジョンをもって「学校運営協議会」を設置している。

６つの学校に共通しているのは、実際の「活動」としての地域の力、すなわち、地域学校協働本部としての機能を「学校運営協議会」に期待している側面が大きいという点である。しかし、「学校運営協議会」が、地域と学校とを結ぶ双方向のパイプ役としての機能を十分に果たしているかというと、必ずしもそうではないというのが現状である。

また、そこで出される様々な「意見」や取り組んでいる一つ一つの「活動」を、地域の将来を担う人材を地域で育てるという視点で捉え直すとき、それぞれの小・中学校区における「このような子どもを育てたい」というビジョンの共有が明確にはなされておらず、子どもたちが経験する様々な活動が、小・中学校の一貫性という意味で説得力を欠くという点は否めない。加えて、学校と地域とが、互いに利益を得ることのできるパートナーとして「連携・協働」を目指すためには、それら一つ一つの活動を、小・中学校を通じた９年間のスパンで捉え必要がある。

そこで、これまで各学校が独自に運営してきた「学校運営協議会」について、小・中学校の一貫性を意識しつつ、その活性化を図るとともに、学校評価にも中学校区として目指す児童生徒像を評価する共通項目を入れることで、児童生徒の学びや育ちを支える社会に開かれた教育課程の実現ができると考え、本主題を設定した。

２　研究のねらい

「学校運営協議会」を活性化し、学校評価の工夫・改善をしていくことで、児童生徒の学びや育ちを支える社会に開かれた教育課程の実現に向けた教頭の役割を究明する。

３　研究の概要と成果

⑴　研究内容

①　「学校運営協議会」の活性化
②　学校評価の工夫・改善

⑵　研究の実際

①　「学校運営協議会」の活性化

ア　姫城中学校区における取組

⑺　地域人材の共有化

姫城地区では、２年前から地域人材の共有化に取り組んでいる。具体的には、姫城地区の歴史学習の支援や家庭科（裁縫・ミシン・調理）の支援など、３校のニーズが一致する学習支援内容である。

３校の学校支援ボランティアの共有化を図り、より専門的で効果的な学習支援となっている。

昨年度は、明道小学校ミシンボランティア支援員を南小学校で活用したり、姫城中学校茶道ボランティア支援員が明道小学校や南小学校で活用したりして効果的な学習支援を行っている。

⑷　目指す児童・生徒像の設定

姫城地区において、今まで地区として「目指す児童・生徒像」が設定されていなかった。昨年度、３校合同学校運営協議会においてワークショップを実施し、姫城地区のよさと課題について検討した。その後、姫城地区校長会とも連携を図りながら、３校合同協議会で「目指す児童・生徒像」を設定した。

イ　中郷中学校区における取組

⑺　中学校区としての組織化

中郷地区では、平成３０年度までは、各校で学校運営協議会を組織し、全５回のうち２回を拡大学校運営協議会として実施していた。

令和元年度からは、中学校区を基盤にした新たな組織として中郷地区学校運営協議会を立ち上げ、全５回のうち３回を全体研修会、２回を各学校での研修会と位置付け、活動している。

これは、児童生徒を中郷地区で育てるという観点から、小中連携や地域、家庭との連携をさらに充実させるために組織を改編したものである。

⑴　目的や目標の共有化

これまでも各学校の学校運営協議会では、「登下校の見守り」「授業支援」「学校環境整備」等、幅広い地域住民の協力の下、学校支援が行われていた。

平成３０年度、県教育研修センターから社会教育主事を招聘して行った拡大学校運営協議会のワークショップでは、本地区は、地域からの学校支援が充実しているので、今後は、地域社会と学校がお互いにWin-Win の関係になるよう、学校支援から協働へとステップアップする段階にきていることを課題として確認することができた。

そこで、新組織では、地域や学校の目指す姿を共有化し、地域課題の解決に向け、地域と学校がパートナーとして連携・協働し、活動を通して児童生徒とともに大人も学び合い、つながりを深めていくことを目指していくこととした。

まず、令和元年度第１回学校運営協議会では、「地域に誇りをもち、夢に向かって、明るく元気に努力する中郷の子ども」を中郷地区の目指す児童生徒像と決め、それを実現するためにどのような活動をしていけばよいかについて具体的に協議した。

第３回学校運営協議会では、目指す児童生徒像に近づけるための各校の具体的な取組について発表し、質疑応答や意見交換を行った。

② 学校評価の工夫・改善

ア　姫城中学校区における取組

⑺　３校の学校評価項目との整合性

昨年度、３校合同協議会において、「目指す児童・生徒像」の案を設定することができた。本年度は、新しく設定した児童・生徒像が、３校の学校評価項目と整合性があるか確認をする計画であった。しかし、コロナの影響を受けて３校合同学校運営協議会が開催できず、検討することができなかった。

来年度は、３校の評価項目の突き合わせを行い、必要があれば評価項目の改訂等を行って行く予定である。

イ　中郷中学校区における取組

⑺　学校運営協議会の取組を評価するための共通項目の検討

まずは、中郷地区の目指す児童生徒像である「地域に誇りをもち、夢に向かって、明るく元気に努力する中郷子ども」が育っているかを評価するために、各学校で行っている学校評価に３校の共通項目を設定しようと協議を重ねた。

その結果、「学力向上」、「心の教育」、「地域との連携」で各１項目ずつ共通項目を設定し、評価することにした。

⑴　小中連携の取組を評価するための共通項目の検討

中郷ブロックでは、学校運営協議会と共通の中郷地区の目指す児童生徒像を実現するために、４つの部会で共通実践をしている。

しかし、その実践を評価する手立てが各部会のアンケートになっており、その業務が非常に煩雑なものとなっている上に、経年変化を考察できるような系統的なものになっていない。

そこで、学校評価の共通項目に、中郷ブロック小中一貫教育の実践事項を評価する共通項目を検討、設定し、令和２年度から評価を行っている。

⑶　研究の成果

①　姫城中学校区における研究の成果

○　「目指す児童・生徒像」を設定したことによって、小中における方向性とゴールの確認ができた。

○　自分の学校だけでなく地区全体の「目指す児童・生徒像」を意識できるようになった。

②　中郷中学校区における研究の成果

○　中郷地区として学校への意見要望を聞く機会が多くなることで、次年度の学校としての重点目標等の見直しに役立てることができ、社会に開かれた教育課程を編成する機会とすることができた。

○　学校評価に３校の共通項目を設定したことで、学校運営協議会の取組を客観的に評価する手立てとすることができた。

４　今後の課題

⑴　姫城中学校区における課題

○　今後も、地域の方々に「目指す児童・生徒像」を理解していただくために、更なる周知の工夫が必要である。

○　姫城地区３校の「目指す児童・生徒像」と整合性のある学校評価項目を作成する予定である。

⑵　中郷中学校区における課題

○　体験が優先され「活動あって学びなし」にならないように、今後も教育効果を考えた教育課程を編成していくことが重要である。

○　小中連携の取組みを評価する３校の学校評価共通項目の評価結果を考察し、目指す児童生徒像の実現に向け、今後の教育課程を改善していくことが重要である。

本研究内容は、コロナ禍のため、昨年度までの研究をまとめたものである。